



みうらゆう
■三浦悠さん(室根)

一昨年消防士になりました。二十歳の目標は自立。より多くの知識、技術を身に付け、消防士として一人前の仕事ができるように頑張ります。



すずきりさこ
■鈴木里紗子さん(川崎)

青森県内の大学で経営学を学んでいます。ソフトボールの遠征費や大学の費用を出してくれた両親に感謝。将来は一関で働きたいです。



おのゆうへい
■小野優平さん(千厩)

県内の大学で建築や防災について学んでいます。勉強だけでなく、学生のうちにはできないことを経験して、将来岩手や一関に貢献したいです。



さとうはるか
■佐藤春翔さん(藤沢)

市内の金融機関で働いています。今まで支えてくれた人たちに恩返しをしたいです。たくさん愛してくれた両親に親孝行もしたいです。



よしだまい
■吉田真衣さん(東山)

県内の大学で英語教育の勉強をしています。夢は高校の英語教諭。学業とボランティア活動に積極的に取り組み、自立した大人を目指します。



こがねもりゆうや
■小金森優弥さん(花泉)

自動車部品関連の会社に勤めています。いろいろなことにチャレンジして人生を楽しみたいです。家族への恩返しは絶対にしようと思えます。



すがわらゆうき
■菅原結さん(一関)

宮城県内の大学で小・中学校の教員を目指して勉強中です。子供たちが楽しく学校生活を送れるよう尽力します。家族にも恩返ししたいです。



ちだゆうき
■千田優樹さん(大東)

自動車整備士2級資格取得を目指して勉強しています。海外勤務や休日出勤をしながら苦勞して育ててくれた父母。次は自分が養い、楽しませる番です。

成人式企画実行委員会は昨年8月7日から18回にわたって集まり、どんな成人式にしたいか考えました。メンバー24人がそれぞれの立場から意見を出し合い話し合いを進めました。

「記念行事」の出し物に選んだのは一関に関するクイズ。久しぶりに会う友人という思い出を作れるよう、新成人全員が参加できる企画を用意しました。クイズの内容も「厳美溪のかっこう団子の名前の由来」など、ちょっと難しい問題も準備。このクイズを通して、古里一関について新たな発見をってもらうことが狙いです。

今年のテーマは「Restart～ここから始まる物語」です。私たちはこれまで、家族、友人、学校の先生や地域の人な

ど多くの人に支えられて成長してきました。人生の一つの節目として、それぞれが20年間を振り返り、どんな大人になりたいか、どんな夢を実現させたいのか考える機会にしてほしいです。そして、決意を新たに自分の目標に向かって進んでほしいと思います。

私は現在、消防士として市内で勤務しています。救急救命の分野を極め、市民の命を守りたいと思っています。高校生の時、いとこが亡くなりました。吐しゃ物を喉に詰まらせてしまったことが直接の死因でした。正しい救命処置をしていれば助かったかもしれないと思うと悔しかったです。講習会などで救命処置の知識を広めることで助けられる命を守る活動をしていきたいです。



さとう・りゅうのすけ(大東町) 一関市成人式企画実行委員会委員長

決意を新たに、歩き始めた若者たち

感謝を胸に目標に進む

今年の成人式のテーマは「Restart～ここから始まる物語」。20歳という一つの節目で今までの人生を振り返るとともに、未来への新しい一歩を踏み出そうという意味が込められている。

成人式企画実行委員は、このテーマに「たくさんの人に支えられて成長してきた」「生まれ育った一関について深く考え、見つめ直す機会にしたい」「自分を育てるために一生懸命働き学費を出してくれている両親、たくさん愛してくれている家族、友人、恩師や地域の人への感謝を伝えたい」などそれぞれ思いを込めた。これまでを振り返り、大人としての一歩を踏み出す決意を新たにしました。

彼らには目標がある。学校の先生になりたい、親孝行したい、一人前の仕事ができるようになりたい。それぞれの目標に向かい、努力を惜しまず、一歩でも近づこうと誓いあった。

古里を思い、大人への一歩を踏み出す新成人たちの物語はここから始まる。

新成人を支える 社会の後押しが必要

総務省の人口推計によると、2018年1月1日時点の全国の新成人は123万人。総人口に占める割合は0.97%と8年連続で1割を下回っており、今後も新成人者数は減少していくと見込まれている。

今後も少子化が進めば、生産年齢人口や労働人口の減少による影響など若い世代への負担は確実に増えていく。また、都市部への人口流出で地方の人口は激減し、地域コミュニティの維持や活発な経済活動が困難になるだろう。そうなれば、生活に身近な商店の閉店、公立学校の統廃合といった生活に直結する問題も増えてくる。

自らの目標に向かって努力を重ねている新成人たち。彼らの夢や希望を叶えるためには働き方の改革や地域の支援など、社会の後押しも必要だ。

早く一人前になって、立派な職人になりたい

祖父の代から続く左官の会社で働いています。高校卒業後の進路を決めるとき、父から「家を継いでほしい」と言われました。年下のきょうだいの世話が好きだった私は、保育士を目指していました。ですが、父の言葉と向き合い、左官の道に進みました。現在は父の会社に勤めながら花巻市

高等職業訓練校に通っています。小学生のとき、コテで自宅の壁をスイスイと塗る職人の姿がかっこよかったことを思い出します。つらいことも多いですが、早く一人前の立派な職人になりたい。今年の目標は左官技能士2級の合格。その後は1級にもチャレンジしたいです。



■ 畠山慶太郎さん

profile はたけやま・けいたろう
1997年大東町曾慶生まれ。高校卒業と同時に左官の道に進み、現在花巻市高等職業訓練校で技を磨いている

20歳を迎え、「大人」と言われるようになった。

20年生きて選んだそれぞれの道がある新成人たち。自分を支えてくれる家族や地域の人に感謝しながらそれぞれが夢と希望に向かって歩き出す。

若者たちの決意